

# 学校だより



平成27年2月3日  
尼崎市立尼崎養護学校

## “しつけ” 躰という言葉



子育てを研究している団体のHPに「躰という言葉の深い意味」という興味ある話が掲載されていました。保護者の方々に参考になる話だと思いますので、ご紹介します。

「躰」という漢字を調べてみると、中国から伝えられた漢字ではなく、日本で考案された漢字であり、いわゆる「国字」と呼ばれるものです。この「躰」という漢字を分解すると、「身」と「美」になり、「身だしなみを美しくする」と解釈できます。「よくできたとても素晴らしい漢字だ」と思われるかもしれません。

2009年にお亡くなりになりましたが、岡本夏木先生（元京都大学・京都女子大学教授）は、幼児の言葉の発達の研究者として知られた方です。

その岡本先生の著作に、「しつけ」について書かれている興味深い文章がありました。「しつけ」という言葉は、もともと「着物を仕付ける」ということに結びついて成り立ってきた言葉であることを受け、「しつけ」という言葉の本質について書かれたものでした

「仕付け」とは、着物の形が整うよう、仮に縫いつけておくことを言いますが、そこで大切なことは、着物がやがて縫いあがると、仕付けの糸がはずされるということです。着物の完成をもって、もはや仕付けの糸はそこにはあってはいけなくなるのです。

以下は、岡本先生の著述からの引用です。

（省略）五歳から七歳の子どもたちは、いよいよしつけ糸をはずしはじめる年齢にあたります。それまでは親が外側から枠組みを与えて、子どもに行為や生活習慣をかたちづくらせていたのですが、いよいよその枠をはずして、子どもが自分の力でみずからの行為や生活習慣を生み出しはじめる時期に入っていきます。

しつけ糸をはずすことは、いうまでもなく、子どもを本人の自律にゆだねることです。しつけとは、もともと自律に向けてのしつけなのです。外からの強制によって社会のきまりをあてがうことよりも、むしろそうした外的強制をとりはずすことをめざすものです。しつけが不要になるようにしつける、とってよいかもかもしれません。

このようにのべてきますと、私のいう「しつけ」は、読者の方々が一般に「しつけ」ということばから受けとっている意味とかなり違っているといわれるかもしれません。ふつうには、「しっかりと」とか「きちっと」「きびしく」することこそがしつけの第一の目的におかれるのではないのでしょうか。それに対して、私のここでいっている「しつけ」は、そういう外からの規制をとりはずして、不要なものにしてゆくことこそ、しつけのねらいなのだとおっしゃっているのですから。とまどいを与えるようで申しわけないのですが、しつけの中で、そのねらいが見落とされていたら、それはけっきょく外見だけのしつけ、子ども不在のしつけに終わってしまうと思うのです。



子育てにおいて、私たちはいつのまにか肝心なことを忘れがちです。「しつけとは、やがてそれがはずされるものであるという前提に立って行われるべきものだ」ということもその一つかもしれません。この前提に立ってしつけにあたっているかどうか、子どもにとって大切な自律と深く関わっているのだという指摘は、とても的を射たものであると思います。



きさらぎ

# 如月

## 2月スタート



新しい年がスタートして1ヶ月が過ぎ去り、時の流れのはやさを感じています。

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われていますが、年始である1月から3月にかけてはとても忙しい日々が続きます。

2月は基本的に28日しかありません。普段より日数が少ないので、仕事がいつもより忙しくなる上、来年度に向けての準備や、仕事での異動があったり、進学に向けての準備や引っ越しなどが必要になってくるのもこの時期です。1月から3月にかけては、とても忙しい時期となります。やることがたくさんあるのに、時間が足りない…もっと時間がほしいのに、日がどんどん過ぎていく…待って欲しいのに行ってしまう。そんな慌ただしさを感じる3ヶ月間です。

さて、2月4日は立春です。しかし春は暦のうえだけで、寒さは厳しく、校庭の草木の芽もまだまだ固いですが、日脚は伸びて日差しも強くなり、日一日と春めいてくる時期です。陰暦では2月を如月(きさらぎ)と言い、草木の更生(生まれ変わる)することから「衣更ぎ」。陽気が更に来る月であるから「気更来(きさらぎ)」。また、前年の旧暦八月に雁が来て、更に燕が来る頃であるから「来更来(きさらぎ)」と、様々なたとえがあります。1月は睦月、2月は如月、3月は弥生。

趣のある旧暦の呼び名から、自然に寄り添い、昔ながらの生活を大切にしながら、人が自然と結びつき、生き生きと暮らせる知恵が宿っているように感じます。

さて、先週末は尼崎にも冷たい雨や雪が降りました。春先の気温から一気に真冬の気温への変化で、本校でも体調を崩す児童生徒が増えています。体調管理には十分に気をつけてあげてください。また、高校受験生のいるご家庭にとっては、今年度より公立高等学校の受験制度(学区拡大)が変わり、ご心配のことと思います。様々な情報が錯綜する中、中学生は自分の力を

### 平成27年度 生徒会役員 勢揃い!!

1月22日(木)におこなわれた生徒会役員改選のための立ち会い演説会、そして投票。26日に選挙管理委員が開票した結果、次の生徒が当選しました。おめでとうございます。

会長	佐藤 世名	高等部2年
副会長	吉永 奈菜	高等部2年
	岡部 朱星	中学部2年
書記	木谷 奈津希	高等部1年
	内田 樹生	中学部2年

生徒会役員は1年間の任期で、生徒会主催の行事や学校行事において、生徒の代表として企画・運営をしてもらいます。そして、彼らに一票を入れてくれた皆さんは、生徒会役員を支える協力をしてください。

『これから1年間、がんばります』

【当選した皆さんを、私たちが支えます】

お互いの気持ちを確かめ合う場が「生徒会認証式」でした。



旧役員と新役員



信じて入試にチャレンジします。自分の進むべき道は自分の力でつかまねばなりません。もちろん全ての生徒に良い結果が出るわけではありません。周りには強がりもあって、心配で、心配でたまらないのです。しかし、どんな結果であっても、自分の思いを受け止めてくれる人が周りにいれば、自分の力でまた立ち上がってきます。そんな子どもの力を信じ、見守ってあげてください。